

平成25年度 音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習後期プログラム

—ごあいさつ—

2013(平成25)年度、音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習後期プログラムが始まります。テーマは、「僕らとまちの商店街〜もっと元気に!」新たな挑戦〜」です。

よくいわれていることですが、なんでも揃う大型店が、広い駐車場を完備し、町の近郊に進出しています。そして、それと比例して町の商店街がさびれていったといわれています。

このことも時代のすう勢であるかも知れませんが、人と人との関わりが、いよいよ希薄になっていくことだと思います。人は決して一人では生きることができません。人と人との交わりの中に、私たちの居場所はあるのです。だから、顔の見える商店街が必要であると思っています。

時代は、どんどん人間の本性に背くような状況が進んでいるかに見えます。まさに「新たな挑戦」ということで、商店街を通して、人間を取り戻すような営みができればと願っています。

帯広大谷短期大学 学長 中 川 皓三郎

—まちを元気にするために—

地域連携推進センター生涯学習室の企画会議の際「後期プログラム、考えてみませんか?」そう田中室長から促され、いくつか企画案を考えてみました。その中の一つが今回のプログラムです。

以前、知人の方が十勝を案内して下さったことがあります。私は甘いものが大好きで「あんこが食べたい」というリクエストに応じて、最初に連れて行って下さった場所が「電信通り商店街」でした。そして今年度、津久井教授からのお声掛けで、調査させて頂いているフィールドもやはり「電信通り商店街」。こういった経緯から、今回は「商店街」という言葉をプログラムに入れさせて頂きました。まちを元気にするために、十勝で様々な角度から取り組みをされている方々にご依頼しました。とはいえ、人脈の少ない私ですから、津久井教授の力添えもあって、帯広電信通り商店街振興組合理事長/まちづくり会社(株)でんしん代表取締役の長谷渉さん、また、田中室長の豊富な人とのつながりとアイデアによって、帯広畜産大学の仙北谷康准教授、EasyDiner7026/CafeSnowpia代表の立石貴裕さんの4名に講師をお引き受け頂くことができました。

さて、映画会ですが、今回は「キツツキと雨」。木こり役の役所広司と新人映画監督役の小栗旬が登場しますが、この新人映画監督と私自身…頼りない感じが重なりました。登場人物に共感もできるし、もどかしさも感じる。そして、ベテラン俳優がこんなことするの?…と思わず笑ってしまう。新しい出会いの中で、評価して認めてくれる存在と協力してくれる存在があれば、頼りなさをさえチカラとなって物事を作り出せる、そんなことを感じさせてくれます。2人の出会いが、村の人たちと撮影隊をつなげ、人と人との交わりから面白いコラボレーションを生みだし、見ている私たちに、ほんわかと元気をくれるそんな映画です。

ぜひ、オープンカレッジに足をお運び頂き、まちの魅力や新しい挑戦の数々、それらを支える人たちを改めて知ってほしい、そう願っております。

帯広大谷短期大学地域連携推進センター生涯学習室 副室長 阿 部 好 恵

特別映画上映会

キツツキと雨

●平成26年2月25日(火)

開場/18:00 上映/18:30 (終了予定 20:45)

●音更町文化センター ふれあいホール

(音更町木野西通15丁目 TEL 31-5215)

第24回東京国際映画祭 審査員特別賞受賞作品

監督・脚本 : 沖田修一『南極料理人』

ベテランの木こり 役所広司 × ゾンビ映画の新人監督 小栗旬

高良健吾・臼田あさ美・古館寛治・嶋田久作・平田満・伊武雅刀・山崎努 ほか

森で暮らす木こりとデビュー作の撮影にやって来た映画監督が出会い、年齢や環境、価値観を超えて心を通わせ合うプロセスをハートウォーミングに描くコメディ・ドラマ。『南極料理人』の沖田修一がメガホンを取り、木こり役の役所広司と新人映画監督役の小栗旬が初の共演を果たす。ほかに、若手実力派の高良健吾のほか、嶋田久作や平田満、伊武雅刀、山崎努といった強力なベテラン陣が共演。役所と小栗はもちろん、脇を固めるひと癖もふた癖もありそうな俳優たちのコミカルな演技も。

入場無料

※但し、入場整理券が必要

【整理券配布場所】

帯広大谷短期大学/生涯学習センター/文化センター/図書館/図書館分館/役場(住民係窓口、教育委員会)/木野支所/木野コミセン/共栄コミセン/総合福祉センター/サンドームおとふけ/ふれあい交流館



©「キツツキと雨」製作委員会